

音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイターコース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅰ	74	2	4
講義	音楽理論/聴音Ⅰ	74	2	4
実習	作曲技法Ⅰ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	74	2	2
実習	DAW・DTMⅠ	74	2	2
演習	作品制作Ⅰ	148	4	8
合計		518	14	22

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 ヴォーカル/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義		選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 II部 サウンドクリエイター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。					
授業概要						
リズムやコード理論を基礎から学ぶ。 音感を鍛える。 既存曲、オリジナル曲を、あらゆる角度から分析。						
到達目標						
代理コードや様々なリズムパターンを修得し、楽曲制作における選択肢の幅を広げる。 楽曲の中で、旋律、コードワーク、リズムがどのように使用されているかを理解する。 分析結果を自身のオリジナル作品に活かせる技術を習得。						

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	楽譜の読み方。メジャー、マイナースケール。メジャー、マイナースケールの聴覚トレーニング。インターバル。
【前期】 5～8回目	様々なリズム。ダイアトニックコード(トライアド)。代理コード(基礎)。コードの聴き取り(初級)。
【前期】 9～12回目	ダイアトニックコードダイアトニックコード(セブンスコード)。その他のコード。コードの聴き取り(中級)。
【前期】 13～16回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリドミナント。コードの聴き取り(上級)。
【前期】 17～19回目	理論を用いたオリジナルソングのアレンジ。コード進行の聴き取り(初級)。
【後期】 20～23回目	人気楽曲の考察。メジャー、マイナーペンタトニックスケール。ブルーノートブルーノートスケール。コード進行の聴き取り(中級)。
【後期】 24～27回目	代理コード(応用)。人気楽曲のコード進行の考察。耳コピー。
【後期】 28～31回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナー。人気楽曲のコード進行の考察。耳コピー。
【後期】 32～35回目	転調。人気楽曲のコード進行の考察。メロディーにコードをつけよう。
【後期】 36～37回目	今までの理論を用いたオリジナルソングのアレンジ。メロディーにコードをつけよう。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲を制作するにあたって感性だけではどうしても行き詰まってしまうことがあります、理論を学ぶことにより選択肢の幅がいくつも広がります。 又、聴覚を鍛えることは楽曲の分析力やオリジナルソングのクオリティを上げることにも繋がるので根気強く頑張ってください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ソングメーカー I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作曲技法 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラース、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「作曲ソフト(Logi Pro X)の操作、作曲と編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> 音楽理論などを通じ、楽曲の成り立ちなどを把握し、仕組みを理解する。 自分の想いをしっかりと自分の言葉として歌詞に落とし込む方法を学ぶ。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の作曲、作詞方法を大系的に学び、オリジナル楽曲を自分の力で作れるようになる。 オリジナル楽曲を自分の力で作れるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> Majorスケール、ダイアトニックコード、Keyを理解する。 春、別れ、出会いなどのテーマを用いて作詞。考察、ディスカッション。
【前期】 5～8回目	<ul style="list-style-type: none"> Minorスケール、マイナーダイアトニックコードを理解する。 雨、気だるさ、憂鬱などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。
【前期】 9～12回目	<ul style="list-style-type: none"> 音高それぞれの役割を理解する。 夏、花火、お祭りなどのテーマを用いて作詞。考察、ディスカッション。
【前期】 13～16回目	<ul style="list-style-type: none"> ダイアトニックコードのトニック、サブドミナント、ドミナントなど、コードそれぞれの役割を理解する。 夏の終わり、セミ、残暑などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。
【前期】 17～19回目	<ul style="list-style-type: none"> 7の和音の理解とダイアトニックコードを理解する。・秋、落ち葉、紅葉などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。 ■前期試験：楽曲の制作により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	<ul style="list-style-type: none"> 鼻歌などから、コードを充てる方法を解説。作曲課題の提出。 街、日常、風景などをテーマに用いて作詞。考察、ディスカッション。
【後期】 24～27回目	<ul style="list-style-type: none"> 小節、拍、リズムの解説。 冬、クリスマス、正月などをテーマに作詞。考察、ディスカッション。
【後期】 28～31回目	<ul style="list-style-type: none"> 言葉とメロディーの関連性を理解するために、課題曲①のコード構成、メロディーラインのアナライズ。
【後期】 32～35回目	<ul style="list-style-type: none"> 言葉とメロディーの関連性を理解するために、課題曲②のコード構成、メロディーラインのアナライズ。
【後期】 36～37回目	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル楽曲の制作と課題提出。 ■後期試験：楽曲の制作により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「作詞／メロディー／制作楽曲／メジャー、マイナーキーの理解／ダイアトニックコードの理解」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代のミュージシャンにとって、作詞作曲というのは必須のスキルです。 また、ただ作るというだけでなく、ある程度のイメージを相手に伝えるためにも、少しでもアレンジを加えておくという事も大事になります。DTMの授業などと複合して、作詞、作曲ができるスキルを習得しましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アレンジ&アナライズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラス、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「作曲ソフト(Logi Pro X)の操作、作曲と編曲の技術と知識等」の指導を行う。				
授業概要					
楽器の理解、ドラム、ベース、ギター、ピアノ、ストリングス、金管楽器、木管楽器、シンセサイザーを使ったサウンドメイキング。コード進行のパターン収集。ブレイク、変拍子、シャッフル、スイングなどのリズムの種類について。Rock、クラシック、ラテン、EDMなど音楽ジャンルについて研究。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイターとして、必要な音楽知識や編曲能力を学ぶ為、DTMを使用して実践的に理解を深める。 ・基本的なDTMの操作、サウンドメイキングの方法、耳コピ能力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 5～8回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる。
【前期】 9～12回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 13～16回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラム・アルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なボイスイング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 17～19回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験: 楽曲制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/ブラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 24～27回目	ブラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 28～31回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 32～35回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 36～37回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験: 楽曲制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきましょう。
備考	参考書「ogic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プロジェクト I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科Ⅱ部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。				
授業概要					
生徒各々のビジョンを具体化していくためのプロジェクトを通して音楽制作におけるスキルアップをはかる。					
到達目標					
頭に思い描いたイメージを実際に形にする。 様々なジャンルのリファレンスから、オリジナルの楽曲を自分の力で制作する。 ゼロから楽曲を生み出す技術と知識をつけ、ひとりでイメージ通りのオリジナル楽曲を完成させる力をつける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ミドルテンポのポップスをリファレンスとし、ワンコーラスの制作プロジェクトを立てて制作、発表する。
【前期】 5～8回目	前回制作した楽曲についての反省点を上げ、改善、発表する。
【前期】 9～12回目	王道アイドルソングをリファレンスとし、ワンコーラスの制作プロジェクトをワンコーラスの制作プロジェクトを立てて制作、発表する。
【前期】 13～16回目	前回制作した楽曲についての反省点を上げ、改善、発表する。
【前期】 17～19回目	これまでに制作した楽曲に歌詞をつけて、一つの楽曲としてフルコーラスで完成させる。
【後期】 20～23回目	R&B楽曲をリファレンスとし、ワンコーラスの制作プロジェクトを立てて制作、発表する。
【後期】 24～27回目	前回制作した楽曲についての反省点を上げ、改善、発表する。
【後期】 28～31回目	スローテンポのロックバラードをリファレンスとし、ワンコーラスの制作プロジェクトを立てて制作、発表する。
【後期】 32～35回目	前回制作した楽曲についての反省点を上げ、改善、発表する。
【後期】 36～37回目	これまでに制作した楽曲に歌詞をつけて、一つの楽曲としてフルコーラスで完成させる。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	どのような楽曲に仕上げていくか、イメージ力を高める為にはとにかく様々なジャンルの楽曲を聴き考察することが大切です。 色々な視点から良さを吸収し、オリジナル制作の糧にいきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	デジタルオーディオワークステーション I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	作品制作 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 II 部 サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	高校卒業後ソルフェ音楽専門学院に入学し同時に活動していたメタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
<p>作曲、作詞、編曲の方法や、PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行っていく上で、どの様なアプローチで楽曲制作していくかを習得します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。 ・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。 ・生徒自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。 ・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。 ・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 5～8回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 9～12回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 13～16回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なポインティング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 17～19回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/ブラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 24～27回目	ブラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 28～31回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 32～35回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 36～37回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	参考書「Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」